

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年1月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102823
法人名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部鹿児島県済生会
事業所名	グループホーム 武岡五丁目
所在地	鹿児島県鹿児島市武岡5丁目16番23号 (電話) 099-282-6081
自己評価作成日	令和2年1月5日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

武岡団地の中心に位置し、近隣の病院、学校、郵便局、金融機関やスーパーマーケットなどの商店街が立ち並ぶ、人通りの多い賑やかな幹線沿いに立地しています。周りには閑静な住宅街も広がり生活の場として、地域住民との交流もあります。

グループホームでの生活は入居者、お一人お一人の生活リズムに合わせ、起床時間や食事の時間は配慮しております。また、好みの活動も塗り絵やパズル、テレビ鑑賞(歌や動物)など個別性を重視しています。さらに集団で行う体操や、運動にも取り組んでいます。外部から講師を招いて、臨床美術を月1回、音楽療法を月4回開催し、脳活性に努めています。

毎月の行事も季節に沿ったものを行ったり、食事も季節感が感じられる献立を作り提供しています。

このように個別性を重視しながら、集団生活での協働性も取り入れ自立支援に向けて、ゆっくりとした時間の中で、毎日を安全に楽しく笑顔で過ごして頂けるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市中心地から数キロ離れた武岡地区の中心地に設置されており、周辺には、小学校や金融機関、郵便局、スーパーマーケット、医療機関、美容室、個人住宅等が立ち並ぶ幹線道路に面して利便性は高い。利用者は、ホームの中から車や人が行き交う様を楽しんで眺めている。

開設以来、地域との交流を大切に取り組んでおり、地域のイベントへの参加や施設見学及びボランティア受け入れ、友人知人の来訪、散歩や買い物時の会話などの交流は利用者の楽しみとなっている。福祉相談所を開設し、日常的に地域の人からの高齢者福祉に関する相談等に専門性を活かして助言に努めている。

管理者及び職員は理念に沿って、利用者が地域や家族と触れ合いながら、笑顔に満ちた暮らしとなるよう日々努めており、利用者及び家族との信頼関係が築かれている。日頃から利用者の想いの把握に努め、個々の尊厳や習慣を尊重した利用者主体のケアに取り組んでおり、臨床美術や音楽療法は生きがいや楽しみになっている。

食事は利用者の一番の楽しみで関心も高いので、嗜好等を十分把握しながら取り組んでいる。利用者の要望もあり月1~2回刺身の副食や季節の行事食、誕生会やクリスマス会のケーキ、月1回の仕出し弁当、レストランでの外食、弁当持参の花見、手作りのおやつなど、常に工夫しており、ほぼ全員完食している。

管理者は、職員との協力体制や信頼関係の構築を大切に、気軽に意見を言い合える雰囲気づくりに努めており、出された意見や個人的事情等に配慮しながら運営やサービスの質の向上を図るなど、働きやすい環境の整備に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念について職場内に掲示し各自確認、共有し実践に繋げている。スタッフ会議などで理念に基づいた支援が実践できるよう取り組んでいる。	利用者が地域の中で家族や友人と関わりながら、その人らしい生活の支援を目標とした理念を掲げており、目に付きやすい玄関や事務所、ホール等に掲示して周知を図ると共に、日々のケアの中やスタッフ会議などで振り返りや意見交換を行って、理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域文化祭の作品出品や、武岡秋祭りなどの行事に積極的に参加し、スーパーへの買い物や、地域の散歩をしながら日常的に挨拶を交わし、地域と交流を図っている。	自治会に加入し回覧板等で地域の情報の把握に努め、地域の文化祭に作品を出品したり秋祭り等に積極的に参加している。また日頃から散歩や買い物時には地域の人々と会話し、実習生やボランティアを受け入れ、地域の人からの認知症ケアや高齢者福祉の相談等にも丁寧な助言に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	街の中心部に位置する立地環境の利点もあり、地域の方の見学や、福祉相談所を開設し介護相談などを受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況や利用者の状況、外部評価結果を報告し、家族や第三者の意見を聞いて、参考にしながらサービス向上の支援に繋げている。	会議は、家族、民生委員、有識者、市長寿安心センター等が出席して定期開催しており、ホームの現状や活動内容、ヒヤリハット等の報告を行い、委員からは感染症やケアに関する意見や地域の情報等が出されている。年1回、消防署や交番職員による防災や事故、防犯等に関する研修も実施して、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の窓口担当者、地域包括支援センター職員とも情報交換を行いながら助言を頂いている。	市担当者には、電話や訪問で利用者のケアやホームの運営及び各種制度の手続き等の相談を行い、助言・指導をもらう等、協力関係を築いている。市主催の会合や研修会にも出席し、福祉相談員も受け入れてサービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のスタッフ会議にて研修の場を設けている中で、年に3回身体拘束・虐待防止の研修を行い、全職員の理解を深めている。玄関の施錠については、交通量が多い場所のため、安全面を考慮して、やむを得ず施錠する時もある。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、ホーム及び法人による研修の実施や委員会を開催して、言葉づかいやケアの振り返り、事例研修、意見交換等を行い、拘束のないケアに取り組んでいる。日頃から身体拘束、高齢者虐待に関する報道を話題にして職員の認識を深め、利用者の見守りや寄り添いに心掛けて安定を図るなど、自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、研修に積極的に参加し、スタッフ会議などでも現実により得る具体例などをあげ、周知を図りケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で研修に参加し、スタッフ会議などで話し合っている。成年後見人も申請について協力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内説明書や重要事項説明書により家族への説明を行い同意を得ている。また、不安や疑問について十分な説明を行い理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れや、満足度調査を行っており、利用者や家族から意見や要望を伺う機会を設けいただいた意見を運営に反映させている。	日頃のケアの中での対話やサインから利用者の想いの理解に努め、家族からの意見、要望は来訪時の対話や電話、家族満足度調査(17項目)の実施、情報紙の発行等、気軽に意見を述べて貰えるように工夫して把握している。出された意見等は申し送りやスタッフ会議等で協議して運営やサービスの改善に取り組んでおり、家族にも報告して理解を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやスタッフ会議、個別で意見や要望を聞き、改善策などを考え運営会議などで反映できるようにしている。	管理者は、日頃から話しやすい雰囲気作りに努め、スタッフ会議や日々の業務の中、申し送り時等に職員の意見や要望を聞き取っている。また、必要に応じて個別面談も実施して個人的事情も把握しながら、信頼と協力関係の構築された働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況の把握に努め、労働時間等働きやすい職場環境に考慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内にて毎月研修の機会があり、ほとんどの職員が参加できる環境がある。参加出来なかった職員のため、スタッフ会議にて報告し専門的知識を共有している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム熊毛支部連絡協議会の研修や、同法人内グループホームとのケア研修にて交流を図り質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の施設見学や面談で生活状況を十分把握するよう努め、心身の状態や本人の思いに向き合い、不安が無いように努力し信頼関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族が求めていることを理解し、事業所としてどのような対応ができるか十分に話し合い、安心して頂けるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時困っている事や不安な事に対して対応し、困難な事は相談しながら他のサービス利用を検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は、接遇を意識しながら人生の先輩である方の尊厳を大事にし、共に支え合いながら生活する関係づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡は密に取り、家族参加の行事などを計画し参加して頂いている。家族と一緒に本人を支える関係づくりを築いて頂けるようにご家族に役割を持って頂けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出や面会（知人、親せきなど）は、いつでも機会を持って頂くようお願いしている。	入所時の意向や日頃の会話、家族からの情報等で馴染みに関する情報を共有し、希望に添って散歩や買い物、教会でのミサ、地域行事等に出かけている。家族、友人等の来訪時にはゆっくり面談できるように配慮し、電話や手紙の取り次ぎ、毎月発行の「ふれあい通信」には写真やコメントを添える等、関係継続に努めている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置などを考慮し、利用者同士がコミュニケーションが取りやすいように、また、苦手な人は職員が介して交わ得るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、連絡を取り合いながら、必要ならば相談支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での会話や行動表情などから声掛けし把握に努めている。困難な場合はご家族の力を得ながらケアの方向性を検討している。	利用者の思いを日頃の会話や表情等で把握し、生きがいのある、その人らしい暮らしとなるよう家族と連携して取り組んでいる。全員での活動に加え、利用者が希望する趣味（編み物、日記帳他）や家事（テーブル拭き、毎日のメニュー掲示等）も、心身の状況に配慮しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護支援専門員や、主治医、家族や知人などや、本人との話の中で情報を得て本人全体の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が利用者の生活リズムを理解し、情報を共有するように努めている。本人の出来る力、解る力の発見にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向が実生活で満足できているか家族訪問時には現状報告を行っている。ニーズの変化等関係者の意見をスタッフ会議にて話し合い、介護計画にも取り入れている。	本人及び家族の意向や主治医、看護師を含む関係者からの情報を共有し、モニタリングやカンファレンス等で意見交換を行って、利用者主体の介護計画を作成している。支援の状況は引き継ぎノートや業務日誌等に詳細に記録して共有を図り、利用者の心身の状況変化に応じて、計画の見直しや修正を行って改善に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別にファイルを用意し、バイタルサインや食事摂取状況等記録しまた、日々の暮らしの様子や本人の言葉など記録している。全スタッフが確認できるようにしている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>体調不良時の病院受診など、柔軟に対応している。また、買い物同行なども行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者が安心して地域で暮らせるように警察、消防等協力支援体制を取っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医になっている。主治医と連携を図りながら、専門医との橋渡しも行っている。</p>	<p>かかりつけ医は本人及び家族が希望する医療機関での受診を継続している。定期的に訪問診療や通院、訪問歯科等が実施され、他科受診については家族と連携して同行している。週1回、訪問看護により利用者の健康管理を徹底し、家族及び協力医療機関とは密に連携を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を1名雇用し、日々相談を行いながら支援している。また、訪問看護ステーションと契約し、週1回の健康チェックや必要な時は随時相談できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入院目的を短期間に達成し、スムーズに隊員が出来るように退院計画を病院関係者と、本人家族と話し合い必要な支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の終末期のあり方について、早い段階からご家族の意向確認を行い、事業所として出来る事を説明している。また、ホームでの介護が可能か主治医、家族、職員が話し合い方針を決めている。	重度化や終末期のケアについては指針を整備しており、利用開始時に説明して本人及び家族の理解を得ている。重度化した時点で、家族及び関係者は話し合いを実施し、可能な限り希望に沿った支援体制を構築して取り組んでいるが、殆んどが終末期には医療機関へ入院しており、看取りの実施は無い。重度化や看取りに関する研修も計画的に実施して、職員のスキルアップや不安感の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員で勉強会を行い、急変時や事故発生時の連絡体制を整え、応急手当や初期対応ができるよう備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署と連携を図り事業所内の訓練を行っている。地域住民の参加協力を得た避難訓練は出来ていないが、働きかけは行っている。</p>	<p>年3回夜間を含む火災発生を想定した防災訓練を実施しており、うち1回は消防署の参加も得ている。日頃から避難経路や通報ルートを確認し意見交換も行って認識を高めている。スプリンクラーや火災通報装置を設置し、懐中電灯、ラジオ等を備え飲料水や食料品(3日分)を備蓄している。今後は、地域住民の災害訓練への参加及び災害発生時の協力体制の構築に取り組む意向である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけを会議や、日々の関わりの中で職員同士が徹底を図るようにしている。プライバシーに関する事は個人情報保護法の理解をし秘密保持を図っている。	プライバシーの確保や個人情報保護については、研修の実施やケアの振り返り等で共通の認識を図り、ケアに際しては利用者の誇りやプライバシー確保に配慮した言葉づかいにも努めている。各居室やトイレ、浴室等はプライバシーに配慮した構造になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表れやすいような日々のケア、関係づくりに努め誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけを実践している。意思表示が困難な方には自己決定が出来るような声掛け働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが、その日の状態や希望を出来るだけ取り入れている。利用者個々に応じた生活を見守りながら、過ごしてもらうように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に訪問理美容を利用して、それぞれの個性に合わせたヘアスタイルにしている。衣類についてもご自分で選んで頂いている。		
		○食事を楽しむことのできる支援		栄養バランスや嗜好、形態、アレルギー、季節感等に配慮して調理してお	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の出来る事をして頂いている。調理の手伝いや、お盆拭き、下膳の手伝いやテーブル拭きなどをして頂いている。	り、利用者が好む刺身も月1～2回ある。四季折々の行事食やクリスマス、誕生日のケーキ、外食(年2回)、仕出し弁当、家族との会食、弁当持参の花見など食事が楽しみなものになるよう工夫し、利用者もテーブル拭きなどを積極的に行っている。利用者毎に食事や水分の摂取状況も把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の内容を記録し、また個々の摂取量や好き嫌いを把握している。管理栄養士の専門的アドバイスももらっている。水分摂取量を把握し、少ない利用者にはお茶以外に好みの飲み物で摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、能力に応じて職員が見守り・介助を行っている。就寝前の義歯洗浄は毎晩行っており、必要時には訪問歯科の検診・指導をもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易に紙パンツ等を使用せず、排泄意識を持てるようにトイレでの排泄を支援している。夜間熟睡度により、尿取りパットやポータブルトイレを使用する場合がある。	利用者毎に排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援しており、身体状況に合わせた介護用品やケアの方法を介護計画に反映させて改善に努めている。ほぼ自立に近い利用者に対しては、過度な支援にならないように配慮している。便秘の予防に植物繊維の多い食材や水分、牛乳、運動量等に配慮し、主治医とも連携して改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供し、味噌汁の具を野菜たくさんにしたり、食事に野菜を多くとりいれたりしている。必要な方には医療機関の指示のもと緩下剤を調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日、時間は一応決めているが、体調・要望・希望に応じた入浴ができている。入浴を拒む方に対しては言葉かけや対応の工夫、その方に合わせた入浴支援を行っている。	利用者の心身状態に配慮し、週3回、シャワー浴や清拭への変更も取り入れながら入浴しており、時間や好みの温度などを柔軟に、ゆったりと安心して楽しめるように支援している。入浴をためらう利用者には、時間や職員の変更、声かけ等も工夫して利用者が意欲を待てるように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態や希望で不安なく眠れる空間を整えている。いつでも好きな時間に休息してもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明をケース記録にファイルし、いつでもいられるようにしている。疾病の症状や薬の一覧表等確認できるようにしている。内容変更時には引継ノートに記録し各自確認をし、スタッフ間で共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。それぞれの経験や知恵を発揮できる場面を作り楽しみや地震に繋げるよう支援している。		
		○日常的な外出支援		外出に対する利用者の意向は日頃の会話等で把握し、健康状態や玉碎等に対応	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の体調、希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように毎日の散歩、買い物を行っている。外出行事も多くなりいれている。	話等で把握し、健康状態や入居等に配慮しながら、周辺の散歩や、地域のイベント、買い物、通院、一時帰宅、墓参等の外出を家族と協力して支援している。季節の花見や外食などホーム全体での外出も計画してリフレッシュを図っており、利用者の楽しみとなっている	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特にお金を使う事は無く、必要な時は立替払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者の希望に応じて、日常的に電話は行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑の植木鉢を置き、利用者の手作りの作品を飾っている。また、風景の写真や鼻の写真を飾り、落ち着いた空間づくりに気を付けている。	明るく広い廊下やリビングは開放感に満ち、玄関からは人や車の往来が楽しめる。随所に観葉植物や活花、利用者の作品等が飾られて季節を感じながら寛げるよう工夫されている。テーブルやテレビ、ソファ等が利用者の利便性に配慮して設置され、清掃や空調、整理整頓、衛生管理を徹底しており、利用者は好みの場所で平穩に過ごしている。	
		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり	ソファや、長椅子、玄関とホー		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ルの自席以外でもゆっくり過ごせるような環境づくりを行っている。思い思いの場所で過ごされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が自宅で使用していた家具、馴染みの物を持ってきていただき、家族の写真や装飾等居心地良く過ごせるようにしている。</p>	<p>腰高窓の仕様で明るく余裕ある居室はフローリングと畳部屋の2種類の仕様で、ベッドやエアコン、洗面台、押し入れ、掛け時計が備えてある。利用者の意向に添って整理整頓を支援し、家庭同様に落ち着いて憩える暮らしとなるよう、使い慣れた寝具やタンス、位牌、家族写真、小物等を自由に持ち込み、また、自身の作品や長寿の表彰状等も飾って、その人らしい和やかな雰囲気となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の理解力に応じてトイレ表示、居室に名前を表示して混乱なく生活が送れるように支援している。個々の身体能力が活かせる居室配置を適正に行い、安全に自立できる生活環境を考慮している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない